第２回　10/4　「″亀の恩返し 2013″物語」

亀田　誠治（かめだ・せいじ）先生　　音楽プロデューサー

1964 年、アメリカ、ニューヨーク生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。 1989 年、音楽プロデューサー、ベースプレイヤーとして活動を始める。これまでに椎名林檎、平井堅、スピッツをはじめDo As Infinity、スガ シカオ、アンジェラ・アキ、JUJU、秦基博、いきものがかり、チャットモンチー、WEAVER、MIYAVI、D-LITE など数多くのアーティストのプロデュース、アレンジを手がける。2004 年夏から椎名林檎らと東京事変を結成。 2012 年閏日に惜しまれつつも解散。2007 年、第 49 回日本レコード大賞、編曲賞を受賞。 オフィシャルサイトにて自身の知識をフリーでシャアし、若き才能が作品を発表する場を提供するなど、様々な形で「恩返し」プロジェクトを展開している。2013 年 5 月には、4 年ぶり 2 度目となる自身の主催イベント「亀の恩返し」を武道館にて開催し、2 日間で 2 万 4 千人を動員。

《講義概要》

音楽プロデューサー、ベースプレイヤーとして、数多くのアーティストのプロデュースやアレンジを手掛ける亀田誠治氏が、「“亀の恩返し 2013”物語」をテーマに講義を行った。当日は当講座２回目となるニコニコ生放送による講義全編の生配信が実施された。

講義では、「最高のアナログコンテンツ」である「想い」をかたちにすることの大切さについて、今までの「ありがとう」の気持ちが込められたライブイベント「亀の恩返し 2013」が実現するまでの道のりを題材に、貴重な裏話を交えながら説明した。「想い」はアナログなものだが、「デジタルコンテンツを動かすエンジン」であり、アナログとデジタルを結ぶ「究極のデジタルコンテンツ」であると言及し、その重要性を示した。武道館での開催、手書きの手紙による広報、ロゴデザイン、ステージ構想などに込められた亀田氏の一つ一つの「想い」に学生は感銘を受けるとともに、想いや夢を持って諦めずに行動することの大切さを実感した。「想い」を持つことで、そこから繋がりや出会い、チャンスが生まれることも示した。

また、「人の背中を押す存在」である音楽の持つ力や魅力について言及し、音楽に対する熱い想いを伝えた。最後には、「君のエンジョイがみんなのジョイを生む」「どのような仕事にも意味があり、その場を一生懸命楽しんで取り組むことが大事であり、周りに良い波動を生む」とメッセージを残し、人生において大切な考え方も示した。

《受講生の感想》

●亀田先生がとても「想い」を大切にしておられるのがよく分かりました。これまで亀田先生が人との繋がりに恵まれていたのは人への想いをとても大切にされ、それをライブや音楽という熱いカタチで伝えてこられているのだと思いました。私も来年の４月から社会人になるにあたって、「想い」を大切にしていこうと思います。結局はデジタルを動かすのは人との繋がりなのだと思いました。先生の仕事感、想いを胸に新社会人として頑張ります。　立命館大学・法学部・4 回生

●「想い」がどれだけ大切かということを改めて知ることができました。「想い」というアナログコンテンツはデジタルコンテンツを動かすエンジンになると言われ、なるほどと思いました。全ての物事を動かすのは誰かの「想い」だと思います。その想いを伝えるものとして、デジタルコンテンツがあるのだろうなと思いました。今後著作権やその他のデジタルコンテンツの話を様々な先生方から聞かせていただけると思います。そこにも何かしらの「想い」があるのだろうと感じました。　立命館大学・文学部・4 回生

●「ありがとうをカタチにする」という言葉がすごく印象的でした。また、「いくら時間がかかっても諦めない」という言葉を聞いて、諦めずに頑張って夢を達成しようと思うことができました。ライブの裏側を少しお聞きすることができてとても面白かったです。私たちを喜ばせるための想いが詰まっているのだと感じ、ますます“音楽”が大好きになりました。

立命館大学・文学部・3 回生

●私は亀田さんとは違うジャンルではありますが、オーケストラで音楽活動をしています。今日の先生の講義を聞いて音楽を出来る幸せ、音楽の持つ力を知ることができました。伝えたい想い、夢を持ち亀田さんのように想いを形に出来るように今日から行動してみたいと思います。デジタル時代だからこそアナログな部分を大切にしたいと思いました。

立命館大学・映像学部・2 回生

●特に印象に残ったものは「想い」というものがすべてのエネルギーの根源となるということでした。ありがとうをカタチにすること、亀の恩返しを武道館でやる意味、ロゴ制作について、ステージ設計について、一つ一つの活動に想いがあり、一流の仕事というものを身近で肌に感じられました。本日亀田先生からいただいたキーワード、キーセンテンスを大切にしていきたいです。　立命館大学・産業社会学部・2 回生

●“想い”と“想い”の会話という言葉にものすごく惹かれました。最近はデジタル化したコミュニケーションツールの中で想いを伝える方法は増えたけれど、お互い熱く伝え合う機会が減った気がします。だからこそ私はどんどん人と話して想いを伝え合えるようにしていきたいと思いました。ライブの会場作りのこだわりは本当に勉強になりました。受け手（観客）をいかに楽しませるか、どこまで夢に溢れたものにするかということはライブだけでなく色んな状況で大切なことだと感じました。

立命館大学・産業社会学部・2 回生